



令和5年の干支「卯」、その十二生肖の「兎（ウサギ）」が鏡に表されています。

月の兎は「餅（もち）」を搗いていない。

月宮図鏡は鏡形を満月に見立て、鏡背に唐時代に伝わる「不死」・「再生」にまつわる月の伝説を図像で表現した鏡です。鏡の右下には、前足に豎杵（たてぎね）を持ち、後足で立つ兎がいます。兎は脚台上の壺の中を搗（つ）いているように見えます。日本では、月には兎がいて餅をついている、と言われますが、古代中国では月の兎は「仙薬＝不死の薬」を搗いていると考えられていました。

古代中国の月にまつわる「姮娥伝説」

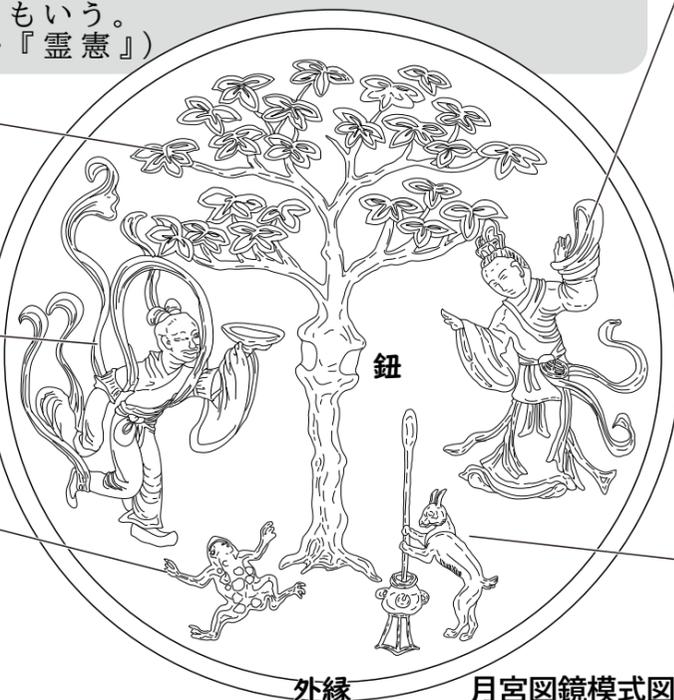
弓の名手である羿（げい）は、不老不死を司る神仙の西王母（せいおうぼ）から不死の薬を貰い受けた。羿の妻の姮娥（こうが）※は、その薬を盗み、月へ逃げて身を託したが、蟾蜍（せんじょ）＝ヒキガエルになったという。
※嫦娥（じょうが）ともいう。
（『淮南子』覽冥訓・『靈憲』）

冠をつけた女性
不老不死を司る神仙の西王母か？裳裾を広げて帯を翻し、兎を指示するかのよう両手を掲げる。

月桂（げっけい）
月の中には高さ500丈（唐時代の1丈＝3.6m）の桂の木があり、切ってもそこから塞がり、再生するという。
（『酉陽雜俎』卷一「天咫」）

双角の鬚を結った女性
夫から不死の薬を盗み、月に逃げた妻の姮娥か？羽衣をまとうて天より降り立つ仙女のように表される。

蟾蜍（せんじょ）
飛びつくように四肢を広げる。不死の薬を盗んで月に逃げた姮娥がヒキガエルになったという。



仙薬を搗く兎
後足で立ち、前足で豎杵を持って壺中を搗き、侍者として西王母のために仙薬＝不死の薬を作る。

月の兎はなぜ豎杵を搗く姿なのか？

兎は姮娥伝説に登場しませんが、不老不死を司る神仙の西王母と関わります。漢時代（紀元前3世紀～後3世紀）、兎は西王母の侍者として豎杵で搗く姿が同じ画面に表されることが多く、西王母のために不死の薬を作っていると考えられています。同時代には、月中に蟾蜍と兎がいるとも考えられており（※『論衡』「説日」等）、月輪の内に走る姿の兎が蟾蜍と一緒に描かれました。兎のなかには豎杵で搗く姿もあり、月で西王母の不死の薬を作る様子を表したといえます。

月の中に兎がいる理由

戦国時代（紀元前5世紀～前3世紀）の詩に月の兎に関する一節があります。『楚辞』天問訓の一節（※典拠：小南一郎氏訳註2021『楚辞』岩波書店）
「夜光（月）にはいかなる徳（生命力）があって、死んでもまた再生するのか、何の利益があって、[月は]顧兎（うさぎ）をお腹に容れているのか」
この詩は、月が満ちては欠けて再び満ちる様子を、死んでも再び生き返る「不死」・「再生」の性質と捉えています。そして、月中に兎がいる「利益」については、月が欠けるのは蛙が月を食べてしまうからという漢時代の考え（※『淮南子』説林訓）を踏まえると、西王母の不死の薬を作る役割が兎にあるように、月が再生して再び満ちるために必要な徳（生命力）を兎がもたらすことと考えられます。

えと
干支
卯
う / ボウ
「月の伝説」
鏡に表された
月宮図鏡



千石コレクション
図録289/ 唐時代/8世紀

令和5年1月2日（月）～3月12日（日）

兵庫県立考古博物館 加西分館
古代鏡展示館
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

〒679-0106 兵庫県加西市豊倉町飯森1282-1（兵庫県立フラワーセンター内）
TEL：0790-47-2212 URL：〈HP〉<https://www.hyogo-koukohaku.jp/kodaikyou/>
FAX：0790-47-2213 〈blog〉<https://kodaikyou.blogspot.com/>



1. 「干支」を「えと」と呼ぶけれど、「干支」って何？

私たちは「えと」と聞くと、「ね、うし、とら、う、たつ、み、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、い」といった12種の動物をイメージしますが、元々の意味は違いました。

「えと」は漢字で「干支」と書き、「かんし」とも読み、「十干（じっかん）」と「十二支（じゅうにし）」の2つの語を組み合わせた「十干十二支（じっかんじゅうにし）」を省略した単語です。

次のように、十干は10種、十二支は12種の文字で構成されます。

じっかん 十干	こう 甲	おつ 乙	へい 丙	てい 丁	じゅつ 戊	き 己	こう 庚	しん 辛	じん 壬	き 癸	10種		
じゅうにし 十二支	し 子	ちゅう 丑	いん 寅	ぼう 卯	しん 辰	し 巳	ご 午	び 未	しん 申	ゆう 酉	じゅつ 戌	がい 亥	12種

2. 「干支（かんし）」で表すもの

この十干と十二支をそれぞれ順番に組み合わせていくと、「甲子（こうし）」にはじまって、「癸亥（きがい）」に終わる、60とおりの組み合わせ、「六十干支」ができます。（表1）

古代中国の商（殷）の時代（約3,500年前）には、この六十干支を使って60日で一巡する日付を表し、後には方位や年などを表すようになります。この干支を使って年を表す方法は、日本には日本書紀の記載や出土品などから古墳時代（約1,500年前）頃には伝わったと考えられています。ちなみに、干支は60年で一巡し、暦（こよみ）が元に還るので「還暦（かんれき）」となります。

表1 干支の順番表

十干	十二支 (1巡目)												十二支 (2巡目)												十二支 (3巡目)												十二支 (4巡目)												十二支 (5巡目)																																															
	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥																																				
甲	1	こうし/きのえね										11	こうじゅつ/きのえいぬ												21	こうしん/きのえさる													31	こうご/きのえうま													41	こうしん/きのえたつ													51	こういん/きのえとら																												
乙		2	いっちゅう/きのとうし									12	いつがい/きのと													22	いつゆう/きのととり														32	いつび/きのとひつじ														42	いっし/きのとみ														52	いつぼう/きのとう																								
丙			3	へいいん/ひのえとら								13	へいし/ひのえね													23	へいじゅつ/ひのえいぬ															33	へいしん/ひのえさる															43	へいご/ひのえうま															53	へいしん/ひのえたつ																					
丁				4	ていぼう/ひのとう							14	ていちゅう/ひのとうし													24	ていがい/ひのと																34	ていゆう/ひのととり																44	ていび/ひのとひつじ																54	ていし/ひのとみ																		
戊					5	ぼしん/つちのえたつ						15	ぼいん/つちのえとら													25	ぼし/つちのえね																	35	ぼじゅつ/つちのえいぬ																	45	ぼしん/つちのえさる																55	ぼご/つちのえうま																
己						6	きし/つちのとみ					16	きぼう/つちのとう													26	きちゅう/つちのとうし																	36	きがい/つちのと																	46	きゆう/つちのととり																	56	きび/つちのとひつじ															
庚							7	こうご/かのえうま				17	こうしん/かのえたつ													27	こういん/かのえとら																	37	こうし/かのえね																	47	こうじゅつ/かのえいぬ																	57	こうしん/かのえさる															
辛								8	しんび/かのとひつじ			18	しんし/かのとみ													28	しんぼう/かのと																	38	しんちゅう/かのと																	48	しんがい/かのと																	58	しんゆう/かのととり															
壬									9	じんしん/みずのえさる		19	じんご/みずのえうま													29	じんしん/みずのえたつ																	39	じんいん/みずのえとら																	49	じんし/みずのえね																	59	じんじゅつ/みずのえいぬ															
癸										10	きゆう/みずのと		20	きび/みずのとひつじ												30	きし/みずのとみ																	40	きぼう/みずのとう																	50	きちゅう/みずのとうし																	60	きがい/みずのと															

【3. 註】
※1 湖北省雲夢県 睡虎地十一号 秦墓『日書』
※2 王允『論衡』 物勢篇

「えと」って何？

3. 十二支に動物をあてはめた「十二生肖（じゅうにせいしょう）」

十二支の「子、丑、寅…」は、十干と組み合わせて日付や年、月、時刻、方位を示すもので、本来動物を意味しませんでした。（図1）それが、遅くとも秦時代（約2,200年前）になると、十二支にそれぞれ動物が割り当てられるようになり（※1）、後漢時代（約1,900年前）には現在と同じ動物にまとまってきます（※2）。十二支に12種の動物を割り当てたものは「十二生肖」と呼び、今日私たちが「えと」でイメージするものと同じです。（表2）

表2 十二支と十二生肖の対応

十二支 (音読み)	十二支 (訓読み)	十二支 (音読み)	十二支 (訓読み)	十二生肖
子	シ	ね	鼠	ネズミ
丑	チュウ	うし	牛	ウシ
寅	イン	とら	虎	トラ
卯	ボウ	う	兎	ウサギ
辰	シン	たつ	龍	リュウ
巳	シ	み	蛇	ヘビ
午	ゴ	うま	馬	ウマ
未	ビ	ひつじ	羊	ヒツジ
申	シン	さる	猿	サル
酉	ユウ	とり	鶏	トリ(ニワトリ)
戌	ジュツ	いぬ	犬	イヌ
亥	ガイ	い	猪(豚)	イノシシ(ブタ)

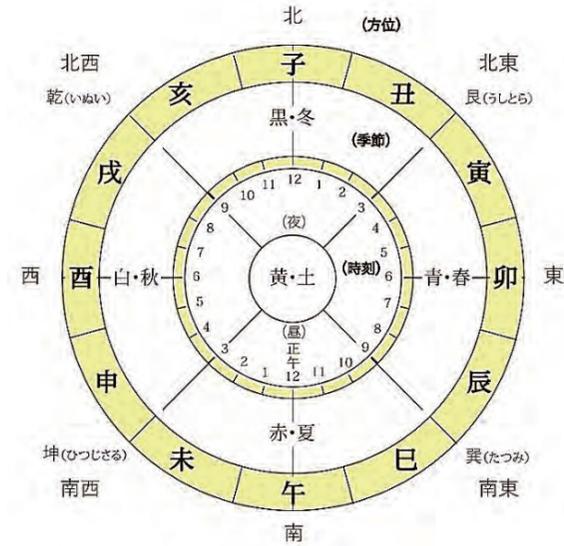


図1 十二支で表した方位や時刻

4. 日本で「干支」を「えと」と呼ぶ理由

日本では、「陰陽（いんよう）」と「五行（ごぎょう）」という古代中国の考え方に当てはめて、十干をそれぞれ呼んでいました。（表3）

陰陽とは、この世の全ては「陽」と「陰」の2つの状態に分けられるという考え方です。そして五行とは、この世の事柄は「木・火・土・金・水」の5つの要素の変化により生じるという考え方です。この5つの要素は陰陽に分かれ、「陽」と「陰」をそれぞれ「兄（え）」・「弟（と）」と呼び、これを組み合わせて「甲」を「木の兄（きのえ）」、「丁」を「火の弟（ひのと）」のように表しました。「えと」という呼び方はこの「兄弟（えと）」に由来します。

表3 陰陽五行と十干の表記・呼称の組み合わせ

	五行				
	木	火	土	金	水
兄	甲	丙	戊	庚	壬
え	きのえ	ひのえ	つちのえ	かのえ	みずのえ
弟	乙	丁	己	辛	癸
と	きのと	ひのと	つちのと	かのと	みずのと

令和5年（2023）は甲子から数えて40番目

	十干	十二支	干支
表記	癸	卯	癸卯
(音読み)	き	+ ぼう	→ きぼう
(訓読み)	みずのと	う	みずのとう



【表1の表記凡例】
数字：干支番号（昇順）
音読み / 訓読み

令和5年の
十二生肖は
「兔（ウサギ）」

まとめ 一日本の「えと」って何？

今日私たちがイメージする日本の「えと／干支」とは、次の項目が入り交じったものといえます。

- ① 漢字表記は、「十干」と「十二支」を組み合わせて省略した「干支」
- ② 内容は、十二支に当てはめた12種の動物「十二生肖」
- ③ 呼び方は、十干の陰陽の分類時の呼称「兄（え）」・「弟（と）」